宮城県大崎保健所栗原支所 感染症発生動向調査情報

1.定点把握対象疾患の発生動向 ※栗原管内を含む大崎管内

-----『機関)あたり――週間に診断した串考数 ∗け争性呼吸哭咸塾症(ΔRI)に今まれる咸塾症

| | | (医療機関)あたり一週間に診断した患者数。*は急性呼吸器感染症(ARI)に含まれる感染症。 疫学週 | | | |
|---------------------------------|------------------|---|----------------------|----------------------|-------------------------------|
| 疾 病 | | 32 週 | 33 週 | 34 週 | 35 週 |
| インフルエンザ (A性呼吸器感染症 ナウイルエンザ | 急性呼吸器感染症(ARI) | 8月4日 ~ 8月10日 | 8月11日 ~ 8月17日 139 | 8月18日 ~ 8月24日 505 | 8月25日 ~ 8月31日 477 |
| | | 104.20 | 27.80 | 101.00 | 95.40 |
| | インフルエンザ * | 0.20 | | | 0.20 |
| | 新型コロナウイルス感染症 * | 8.80 | 5.40 | 15.40 | 90 18.00 |
| 小児科定点 | RSウイルス感染症 * | | 0.33 | 0.33 | 0.33 |
| | 咽頭結膜熱 * | | 0.33 | 0.00 | 0.00 |
| | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 * | 2.67 | 3 1.00 | 8 2.67 | 5 1.67 |
| | 感染性胃腸炎 | 6 | 3 | 6 | 7 |
| | | 2.00 | 1.00 | 2.00 | 2.33 |
| | 水痘 | 0.33 | | 1.00 | _ |
| | 手足口病 | 1.00 | | | 0.67 |
| | 伝染性紅斑 | ¹⁶ 5.33 | 3.33 | 18 6.00 | ³¹ 10.33 |
| | 突発性発しん | 1.00 | 0.00 | 3 1.00 | 3 1.00 |
| | ヘルパンギーナ * | 13 | 3 | 13 | 25 |
| | | 4.33 | 1.00 | 4.33 | 8.33 |
| | 流行性耳下腺炎 | | | 0.33 | |
| 眼 科 定 点 | 急性出血性結膜炎 | | | | |
| | 流行性角結膜炎 | | | | |
| | 感染性胃腸炎(ロタウイルス) | | | | |
| 基幹定点 | クラミジア肺炎(オウム病は除く) | | | | |
| | 細菌性髄膜炎(真菌性を含む) | | | | |
| | マイコプラズマ肺炎 | 3.00 | 1.00 | 2.00 | 2.00 |
| | 無菌性髄膜炎 | 0.00 | | | |
| 拡張疾患 | マイコプラズマ肺炎(小児科) | 7 | 4 | 12 | 8 |
| | 川崎病 | 3 | 1 | | 1 |
| | 不明発疹症 | | 1 | | |

大崎保健所管内定点数:内科定点2施設 小児科定点3施設 眼科定点1施設 基幹定点1施設

2. 集団発生状況 ※栗原管内の過去2週間における保健所対応状況

| 施設区分 | 保育所 | 高齢者·障害者施設 | 医療機関 |
|------|---------|-----------|------|
| 対応状況 | 0 | _ | _ |
| 備考 | ヘルパンギーナ | | |

【医療機関の皆様へ】

・感染症法に基づく、 医師の届出に必要な 医師の届出に必要な アカウントの発行及び システムのログインは こちら こちら





3.栗原支所より

◎:複数対応中、○:対応施設あり、一:対応無し

【 全数報告疾病 】※栗原管内

- 百日咳:男性1人、女性2人
- 百日咳の患者報告数は県内全域で多い状況が続いています。

【定点把握対象疾患の発生動向】

※栗原管内を含む大崎管内

- 新型コロナウイルス感染症及びマイコプラズマ肺炎は県内全域で 患者報告数が増加しています。
- 伝染性紅斑は高い水準で継続しており、警戒が必要です。
- ヘルパンギーナは栗原を含む大崎圏域で約2倍に増加していま

【集団発生状況】※栗原管内

保育施設でヘルパンギーナの集団発生がありました。

【 感染症コラム~結核~】

- 結核とは、「結核菌」という細菌による慢性感染症です。患者のくしゃみや咳の 際に体外に排出された結核菌を吸い込んで感染(空気感染)します。
- 免疫力が正常な場合、「感染」しても結核菌の増殖を封じ込めることができま す。しかし、免疫力が下がると結核菌を抑え込めなくなり、症状が出現し、菌を 排出するようになります(発病)。
- 高齢者の場合、抵抗力の衰えにともない幼少期に「感染」した菌を抑えること ができなくなり、結核を「発病」する場合があります。
- 肺に病変を作ることが多く、症状は風邪に似ていますが、リンパ節や骨、関節、 腸など全身に及ぶ場合があります。
- 治療は抗結核薬の長期間の服用ですが、処方薬を不定期に服用すると耐性菌 ができるので医師の指示を守ることが大事です。
- ・ 予防のポイントは予防接種(BCGワクチン)、咳エチケット、定期健診の3つです。

【お知らせ】

結核•呼吸器感染症予防週間 9/24~9/30

- ・毎年9月24日~30日は「結核・呼吸器感染症予防週間」です。
- ・日本は結核低まん延国の水準を満たしていますが、今でも年間1万人以上の新規患者(約7割が60歳以上)が発生し、 1,500人以上が命を落としています。長引く咳症状は医療機関に御相談ください。
- また、冬季は呼吸器感染症が増加します。咳エチケットや手洗い、換気 等の基本的な感染対策が有効です。流行前に正しい方法を確認しま しょう。

大崎保健所 栗原支所 疾病対策班 ☎0228-22-2117 **ᆸ**0228-22-7594